

山下曲輪

山下の平地を山下曲輪と呼びます。

大手一の門・二の門(昭和32年国指定・重要文化財)

内堀の北側中央部に位置しています。城内側の櫓門を一の門、堀端の高麗門を二の門と呼びます。寛文10年(1670)頃の京極氏のときに、完成しました。一の門は、楼の上に太鼓を置き、城下に刻を知らせたことから、太鼓門とも呼ばれています。



玄関先御門・番所・長屋(昭和38年県指定・有形文化財)

この門は、京極氏の屋敷の表門にあたり、形式は薬医門です。この門に接して番所・長屋があります。芝生広場や資料館は、かつては藩主の屋敷地でした。



丸亀市立資料館

開館時間／9時30分～16時30分

入館料／無料(企画展有料のとき有)

展示資料／歴史・考古・民俗資料

休館日／月曜日・祝日・資料整理期間・年末年始等



かぶと岩

この岩は岩頸と呼ばれ、火山の噴出口への通路部にある火成岩(安山岩)が浸食を受け、円柱状に露呈したものです。京極氏の庭園であったところにあり、神祠が建てられました。



見返り坂

大手門から山上に向かう山道は見返り坂と呼ばれています。

石垣の美

三の丸北側の石垣は、丸亀城の石垣のなかで最も高く、20m以上の城壁が続きます。隅角部の石垣は算木積みされた美しい曲線美で、「扇の勾配」と呼ばれています。

高浜虚子の句碑

「稲むしろあり

飯の山あり 昔今」

虚子



石垣の見所

丸亀城の石垣は、主に築城技術が最も発達した山崎氏のときに築られました。城内には打ち込みハギをはじめ、野面積み、切り込みハギなど様々な石積みが見られます。

また、石垣のなかには「△」や「田」など刻印と呼ばれる記号が見られます。石を割った矢穴の跡や石の表面をきれいに加工したノミの跡などもあります。

ゆっくりと丸亀城の石垣を観察しながら散策してみたいかがでしょうか。



■野面積み

東南の山麓に延長約80m、また、内堀北側の土堀下の石垣にも一部見られます。



■打ち込みハギ

丸亀城石垣の大部分がこの積み方です。布積みとも呼ばれます。



■切り込みハギ

大手枡型の石垣・桁の木門跡(現搦手・旧大手)の石垣等、城の大事なところに築き、見せる石垣として用いられています。



丸亀城木図(平成4年市指定・有形文化財)

檜材で精巧に造られた江戸時代初期(寛文年間)の木型模型です。城の再建、改修をするときに絵図とともに幕府に提出されたものと言われています。全国でも、この丸亀城のものしか残っていません。

(丸亀市立資料館所蔵)



本丸

山上の最高所が本丸です。本丸には、^{てんしゅ}天守の他に^{すみやぐら}隅櫓・^{わたりやぐら}渡櫓・^ど土塀が石垣上に巡っています。礎石、排水路を一部復元しています。

丸亀城天守(昭和18年国指定・重要文化財)

3層3階の現存木造天守です。高さ約15m、1階北側には、石落や狭間があります。唐破風や千鳥破風で意匠を凝らしています。この天守は、四国内で最も古く^{まんじ}万治3年(1660)に完成しました。日本一小さな現存木造天守です。



二の丸

山上で2番目に高い平場(曲輪)です。本丸同様石垣上に隅櫓や渡櫓がありました。

二の丸井戸

丸亀城で最高所にある井戸です。現在も水を湛え、城絵図によると深さは36間(約65m)あります。築城にかかわる悲しい伝説のある井戸です



三の丸

本丸・二の丸を巡る平場です。3カ所に隅櫓がありました。

戌亥櫓跡

戌亥櫓は、明治2年の^{はんてい}藩邸(旧京極家屋敷)火災のときに焼失しました。火災で焼けた跡が今も石垣に残っています。



三の丸井戸

山崎時代の絵図にある井戸です。深さ31間と書かれていますが、現在は空井戸となっています。抜け穴伝説があります。



月見櫓跡

讃岐富士を正面に望みます。

吉井勇の歌碑

「人磨の歌かしこしとおもひつつ
海のかなたの沙弥島を見る」

勇



丸亀城年表

西暦・年号

記 事

- 1532~55 てんぶん 天文年間 丸亀山、奈良氏の支配下にある。『南海通記』
- 1587 てんしょう 天正 15 いこまちかまさ 生駒親正、讃岐国に封ぜられる。
- 1597 けいちょう 慶長 2 かずまさ 生駒親正・一正父子丸亀城築城に着手する。
- 1602 慶長 7 生駒一正、丸亀城から高松城へ移り、丸亀城に城代を置く。
- 1615 げんな 元和 元 はいじょう 一国一城令で丸亀城廃城となる。
- 1640 かんえい 寛永 17 生駒氏所領没収、出羽国由利郡矢島に転封となる。伊予大洲藩主加藤氏の預かりとなる。
- 1641 寛永 18 やまざきいへる 天草郡、富岡城主山崎家治、西讃岐5万石余の領主となる。
- 1642 寛永 19 山崎家治、生駒氏城跡地に城地決定。
- 1643 寛永 20 山崎家治、当年の参勤交代を猶予され、幕府から銀300貫を得て、丸亀城を再築する。
- 1645 しょうほう 正保 2 幕府の命により丸亀城の絵図を提出する。(正保城絵図)
- 1649 けいあん 慶安 2 幕府、山崎氏に丸亀城修復、普請等の指示を出す。
- 1656 めいれき 明暦 2 高松藩の記録によると丸亀城中残らず焼失という。
- 1657 明暦 3 山崎氏絶家。大洲藩主加藤氏在番する。
- 1658 まんじ 万治 元 きょうごくたかかず 京極高和、丸亀藩主となる。石高6万67石。
- 1660 万治 3 丸亀城天守完成する。
- 1670 かんぶん 寛文 10 丸亀城大手門を南から北の現在地に移す。城内屋敷の建設。
- 1688 じょうきやう 貞享 5 しもなくら 下金倉村の海浜、中洲へ京極家別館をつくる。(現中津万象園)
- 1694 げんろく 元禄 7 高或3代藩主となり、庶兄高通に多度津1万石を分ける。
- 1768 めいわ 明和 5 よさぶそん 画家俳人と謝蕪村、とみやまみょうほうじ 富屋町妙法寺滞在。
- 1777 あんえい 安永 6 天守鬼瓦銘。翌年、城内の普請完成。
- 1789 かんせい 寛政 元 じつべんしゃいつく 十返舎一九、丸亀に上陸し、こんびらさんけい 善通寺・金毘羅参詣をする。
- 1806 ぶんか 文化 3 ふくしまたんぼ 福島湛甫を築く。
- 1833 てんぽう 天保 4 しんぼりたんぼ 新堀湛甫を築く。
- 1869 明治 2 あきゆき 京極朗徹、はんせき 版籍を奉還する。城内屋敷出火し、焼失する。
- 1874 明治 7 陸軍省の所管となった丸亀城の番丁に丸亀兵營が完成する。
- 1876~77 明治9~10 この頃に城内の櫓、多聞が取り壊される。
- 1919 大正 8 丸亀市が、山上部を借地して公園として開設する。
- 1926 大正 15 国有地の一部が市へ払い下げられる。
- 1943 昭和 18 丸亀城天守国宝となる。
- 1945 昭和 20 内堀以内の城跡が公園として一般開放される。
- 1948 昭和 23 外堀の埋め立てが始まる。
- 1950 昭和 25 天守の解体修理が完成する。天守重要文化財となる。
- 1953 昭和 28 丸亀城跡が国指定史跡となる。
- 1957 昭和 32 丸亀城大手門が重要文化財となる。
- 1963 昭和 38 丸亀城玄関先御門等が県指定文化財となる。大手門の修理が完成する。
- 1968 昭和 43 玄関先御門等の修理が完成する。
- 1976~78 昭和51~53 第1次石垣修理工事。
- 1987 昭和 62 天守化粧直し。
- 1990 平成 2 史跡丸亀城跡保存整備事業が始まる。
- 1991 平成 3 第2次石垣修理工事始まる。
- 1993~94 平成5~6 本丸・二の丸整備。
- 1997 平成 9 築城400年祭行われる。